

これだけは知っておきたい パドルテニスのマナー

「何だ あいつ!」「何よ あの!」
にならないために!

● パドルについている紐は何のため?

グリップエンドについているストラップ(正式にはセーフティーコードといいます)は、万が一、狭いコート内で硬いパドルが手から抜けてしまった場合でも、大切なダブルスパートナーや練習仲間を傷つけないためにあります。プレー中は必ず着用するようにしてください。マナーの基本は、相手を思いやる心です。

コードに手を通した時にたるみが気になるようなら、クリクリっとコードを巻いて、たるみを抑えるようにします。



● ラリーの最初は?

あまりなじみのない相手とラリーを始める時は、まず相手のフォアハンドに打ちやすいボールを送るのが思いやりです。そして、その思いやりのボールに対して、いきなり全力強打返球しようものなら、間違いなくあなたは「コートの嫌われ者」になり下がることになります。

相手が、一球目からタイミングが合わないようなら「ちょっと考えろ」のサインです。ラリー練習の際に、ボールのペースに強弱をつけるのは、何往復か続いてからにしないでなりません。

また、ラリーを始める際には「おねがいしま〜す」で会釈、「ボールいきま〜す」でボールを出す。これでお互い気分良くプレーが始められますね。

● ボールは誰が拾うの?

「ネットより自分側コートに転がっているボールは、自分たちで拾う」が、原則です。

相手側のコートにあるボールでも、ネット際はなるべく拾ってあげてください。自分側のボールを相手が拾ってくれたら、当然「ありがとうございます」です。



● ボールを渡す時は？

「オーバーハンドで、軽く、ワンバウンドで、相手の胸のところに」が基本です。セーフティーコードに手を通してある時や、遠くにいる相手にボールを渡したい場合は、パドルで打って送っても差支えありませんが、相手がこちらを見ていないのに打ってはいけません。この時も「ボールいきま〜す」が便利です。すぐ近くにいる相手になら、手渡しするのがベストです。

● コートの後ろを通りたい？

隣コートの後ろに飛んで行ってしまったボールを拾いに行ったり、向こう側の出入口に向かったりするために、プレー中のコートの後ろを通らなければならない場合があります。そういった時の判断ポイントは、そのコートがインプレー中かどうかにあります。試合か練習中かに関わらず、インプレー中であれば、はやる気持ちを抑えてじっと我慢しなければなりません。そして、プレーが途切れたタイミングで素早く通るようにしましょう。

● 入ってる？ アウトかな？ 判定は？

セルフジャッジの試合では、自分側のコートラインの判定は自分たちでしなければなりません。「アウト」「フォールト」とは、ボールとラインの間に明らかに空間が見えた時のみ成立します。疑わしきは「グッド」です。判定が難しい場合は、相手に有利な判定をするようにしましょう。

「アウト」「フォールト」の場合は、相手にわかるように、はっきりした声とハンドシグナルを使って速やかに判定を表現しますが、「グッド」の場合は、決して声に出してはいけません。ハンドシグナルの最も代表的なものは、人差し指を上に向けて「アウト」、手の平を地面に向けて「グッド」です。

パドルテニスは、相手がいなければプレーできません。共にプレーする相手には感謝と尊敬の気持ちを表すことが大切です。

重要なポイントで相手のミスを喜んだり、自分を鼓舞する目的とはいえ、得点のたびに大きな声を出したりするような態度は絶対慎まなければなりません。特に大声は、周りのコートのプレーや判定の妨害となり、コードバイオレーションの対象となる場合がありますので、各自注意が必要です。試合前後の握手も忘れたくないですね！



● スコアアナウンスはどうするの？

セルフジャッジのゲームでは、サーバーが両足のスタンスを決めた後、レシーバーの態勢を確認し、整っているようであれば、レシーバーに聞こえる声でスコアをアナウンスします。このアナウンスによって、プレーヤー同士がスコアを確認し合いながら、サービスを打つこととなります。このスコアアナウンスで大切なことは、サーバーが「言った」「言わなかった」ではなく、レシーバー側が確認できたかどうかなのです。

● プレー中にボールが入ってきたら？

試合中か練習中を問わず、インプレー中であるならプレーに集中して続けても全然問題ありません。が、プレーが途切れたら、にこやかにボールを拾ってあげましょう。

ただ、もし、あなたが試合ではなく練習中で、コートの後ろを通ろうとしている人に気がついたのなら、ラリーを続けながらで構いませんので、「どうぞ（お通りください）」と伝えてあげてください。



また、試合中にどこかから入ってきたボールがプレーの妨げになる場合は、「レット」をコールすることにより、プレーを停止しそのポイントをやり直しとすることができます。ただし、自分やパートナーがボールを打つ番である場合なら、必ず打球前にコールしなければならないことと、相手の絶対的なチャンス状況の場合は、よほどのことがない限り「レット」のコールは控えるべきだということを覚えておきましょう。

● 大会などへ応援や観戦に行ったら？

「プレーヤーの妨げにならない」につきます。応援や観戦中にプレーヤーの視界に入る場所で動き回ったり、ワイワイペチャクチャなんて言語道断。試合コート周りを通行する際は、インプレー中の移動は控え、ポイントが途切れた時や、エンドチェンジのタイミングを逃さないようにします。

また、コート外から判定への口出しは絶対してはいけません。

さらにプレーヤーへのコーチングも厳禁です。「ガンバレ！」や「一本挽回！」などの応援はOKですが、「準備を早く！」とか「ロブをさえ！」など技術や戦術に係わることは、禁止されているコーチングに該当しますのでご注意ください！ 目配せしてうなずくだけでもダメって知っていましたか？

携帯電話は当然マナーモードです。赤ちゃんを試合会場などへ連れていく場合は、突然泣き出したり、ボールが当たったりすると、みんなの迷惑になりますので、しっかり対応策を練ってから行くようにしましょう。

● 施設を利用する時は？

体育館などの施設を利用する際は、施設の決まりごとは絶対守りましょう。

また、隣コートとの間仕切りがない施設を利用する時は、できるだけ隣にボールがいかないよう注意しなければなりません。レッスン形式などボールをたくさん使って練習したい場合は、打球方向に注意することも必要ですが、コート間にボールフェンス係をしてくれる人を配置するような工夫をしてください。

さらに、使用後のモップ掛けはフロアの端まで行うように心がけましょう。フロア内に飲料水持込が許されている施設においても、ふた付き容器のものにします。ごみは決められた場所に！ 飲食・喫煙は決められた場所で！

ここに、パドルテニスプレーヤーとしての品格が表れます。



一般社団法人

日本パドルテニス協会

National Paddle Tennis Association of Japan

〒252-0301 相模原市南区鶴野森 1-38-1-A302

TEL&FAX 042-705-6262

Email : npta@paddletennis.gr.jp

<http://www.paddletennis.gr.jp>